匿名 SNS におけるメタ語用論的言説の質的分析 —「打ちことば」規範に関する社会言語学的考察—

A Qualitative Text Analysis of Metapragmatic Discourse on Anonymous SNS: Exploring Norms in *Uchikotoba*

谷　茉利子
Mariko TANI

京都大学大学院文学研究科
Kyoto University, Graduate School of Letters
tani.mariko.67y@st.kyoto-u.ac.jp

概要

本発表は，日本の匿名 SNS における「打ちことば」についての明示的な主張を質的に分析し，言語イデオロギーの特定を試みた．結果，いわゆる「正しい」表記とのずれに関するメタ語用論的言説からは，表記のずれによる生理的・心理的影響，次いで送り手の社会的イメージの低下を反映するものが多く観察された．「正しい表記を使うべき」という規範は，人々の「打ちことば」への態度に強く結びつき，時に送り手の人物像の評価にまで関与し得ることが示唆された．

キーワード：社会言語学，打ちことば，テキスト分析

1.　はじめに

近年，インターネットの普及に伴い，世界中で電子メール，ブログ，SNS（; Social networking service）などのメディアを代表とするコンピューターを介したコミュニケーション（Computer-mediated communication; CMC）が広く一般化している．CMC は，その形態上，文字による情報を中心とした伝達，非言語的情報の欠落など，対面コミュニケーションとは異なる特徴を有することが知られている．そのため，略語や絵文字など，CMC 特有の言語使用が観察されることがある．また，特に SNS などのプラットフォームでは，話し言葉の要素を多く含むとされる「打ちことば」[1]への注目が高まっている．本発表は，人々の「打ちことば」の使用がどのような社会的・文化的要因によって作用されるのかをより具体的に把握するため，「打ちことば」における言語規範に着目した．

佐竹[2]が「女ことば・男ことば」規範について指摘するように，人々は成長とともにさまざまなメディアを介して女性と男性の言語使用のあり方やそれについての評価に触れることで，それらに関する知識を身につけていく．これは「打ちことば」にも同様の説明ができ，人々は SNS での「打ちことば」のあり方に対する評価に触れ，「打ちことば」規範に関する知識を身につけていくのではないだろうか．フランス語圏の CMC 実践を対象とした Cougnon&Draelants[3]は，言語規範との関連で言語イデオロギーを観察した；SNS でのミススペリング（エラー）に対する人々の態度から，道徳性，機能性，文化的カテゴリー含め，全 7 種類の言語イデオロギーの反映を確認している．

これに倣い，本発表では，日本の CMC 実践におけることばに関することば—これを，メタ語用論的言説(; Metapragmatic discourse)という[4][5]—を観察する．メタ語用論的言説には明示的なものと間接的なものがあるが，本発表では「このような書き方は間違いだ」のように，あることばやその使い方について明示的に述べる前者を分析の対象とする．具体的には，匿名性の高い SNS「Gravity」における，次の(1)のような言説を扱う（Gravity より）．なお，実例における句読点はママ（e.g.「、」「。」），アプリ内絵文字は[emoji]と表記する．

(1)　「気をつけて」を「気よつけて」「気おつけて」って書く人も無理です、知能が心配

上記のような「打ちことば」に関する明示的な主張からは，人々の「打ちことば」への態度が垣間見える．そこに反映される言語イデオロギーをもとに，日本の「打ちことば」に観察される言語規範について考察していく．

したがって，本発表における研究課題は次のように設定される：①人々はどのようなメタ語用論的言説を発信し，②それらはどのような言語イデオロギーを反映しているのか，③そしてそれはどのような言語規範と結びついているのか．

以下，第 2 節ではデータ収集およびデータ分析の手法を紹介し，第 3 節では分析の結果を報告する．第 4 節で「打ちことば」に伴う言語規範に関する考察をし，最後に第 5 節でまとめを述べる．

2. 方法

データは 2020 年 12 月よりサービスを開始した日本の匿名 SNS「Gravity」において，2021 年 8 月から 2023 年 6 月までに発表者の「新着」および「みつける」の 2 つのフィードで確認された，ことばに関することばを含む投稿 18 件と，それらのコメント欄に寄せられたコメント各最大 50 件の全 576 件である．データは，保存した投稿をいつでも見返すことのできるコレクト機能を使って収集した. 分析にあたり, データをエクセルに書き起こした.

データ分析は, 内容分類と言語イデオロギー分類の 2 段階にわたり，すべて手作業で行った．まず，内容分類では，「打ちことば」に関するメタ語用論的言説に該当する投稿全 18 件を対象に，Conventional approach[6]を採用した ; 繰り返し書き起こしデータに目を通し, キーワードを抽出し, カテゴリ化した. 言語イデオロギーの分類に際しては，内容分類でソートしたカテゴリから対象のデータを選定し，Directed approach[6]を採用した ; Cougnon&Draelants [3]の結果をもとにコード化し，該当しないデータに関してはキーワードを抽出し，新たなカテゴリを設定した.

3. 結果

3.1. 内容分類

全 18 件の投稿をトピック別に分類したところ，大きく 3 つのカテゴリが浮かび上がった : いわゆる「正しい表記」とのずれ（e.g.「うろ覚え」と「うる覚え」,「いう」と「ゆう」,「一応」と「一様」），記号・絵文字・「笑」表現の使用と選択（e.g.「笑」と「w」），文体の使用と選択（e.g. タメロ，方言）．なかには，「正しさ」との表記ゆれと記号・絵文字・「笑」表現の使用と選択の 2 つのカテゴリにまたがる(2)のようなデータもいくつか確認された.

(2) 何となく…を、、、で表現するタイプの人とは合わない気がしてる

カテゴリ間の重複を認め, 3 つのカテゴリにはそれぞれ 7 件，8 件，4 件，その他が 2 件観察された.

また，「正しさ」との表記ゆれに分類される投稿およびそのコメント欄からは，口語形式と文語形式による表記ゆれ，誤字・誤用形式，規範逸脱的とされる表記（三宅[6]参照）の 3 つのサブカテゴリが抽出された．それぞれ，(3)，(4)，(5)に分類されたデータの一例を示す.

(3) 店員のこと定員って書く人も気になります笑

(4) 気持ちわかります！「意外」と「以外」の使い方を間違えてる民衆も無理です…

(5) 少し違うかもですが,
ぁ とか地雷でしかないです
やゆよを小さくする方も

3.2. 言語イデオロギー分類

本発表では，Cougnon&Draelants[3]がミススペリング（エラー）に関するデータを扱ったのと同様に，これらいわゆる「正しい表記」とのずれに分類される投稿およびその投稿に寄せられたコメント（186 件）を言語イデオロギーの分析対象とする．しかし，コメント欄には，投稿に対する皮肉的な便乗コメント(6)や，項目の列挙のみに留まるもの(7)，投稿主に対するリアクション(8)なども多い.

(6) ぅむ、おれもわかるょ…
そうゆうのまぢでゅるせん。
フインキ読んでほしぃ…
まぢ気ずいてほしぃ…

(7) しずらい、きずかい、きずく(気付く)…あとなんだ🤔

(8) プライド高そう

そこで，本発表ではこれらを排除し，「打ちことば」に関する明示的な主張をするデータのみ（116 件）を扱うこととした.

これらのデータがどのような言語イデオロギーのカテゴリに分類されるかを，Cougnon&Draelants[3]を前提に探っていく．Cougnon & Draelants[3]は，自由記述形式で収集したミススペリング（エラー）に苛立ちを感じる理由の回答（合計およそ 7000 語）を手作業で分類し，Morality, Functionality, Culture, Social Impact, Aestheticism, Semantics, Physio-psychological Impact の 7 つの言語イデオロギータイプを特定している．これをもとにデータの分析を行い，当てはまらないものはコード化を通して新たにカテゴリを設定した．結果として，いわゆる「正しい表記」とのずれに関して否定的な反応を示しているもの（89 件）と中立的・肯定的な反応を示しているもの（27 件）に大きく分かれた．以下の小節でそれぞれの結果を詳しく述べる.

3.2.1 否定的な態度

いわゆる「正しい表記」とのずれに該当するデータのうち，否定的な態度を示す 89 件のコメントはすべて

Cougnon&Draelants[3]の言語イデオロギーのカテゴリによって分類された（カテゴリ間の重複を認める）．以下では，カテゴリ名に括弧付で発表者の訳出を示しながら，Cougnon&Draelants[3]による定義を提示し，該当データの件数および一例をそれぞれ示す(9)~(15).

Morality（道徳）は，その表記によって送り手の道徳性や分別の欠如が反映されるものである[3]．このカテゴリには，「テレビや単行本」における表記ゆれに関するコメントも含まれた（7 件）.

(9) 知人で自称ライターやってる子が「いちよう」ってめっちゃ書いてます[emoji]
漢字も疎いです。
それでもお金もらってライターやってます…世も末…

Functionality（機能性）は，読み手や検索機能にとってその表記が理解や正しい検索結果の表示を妨げるといった内容が該当する[3] ．本発表ではこのカテゴリに分類されるデータは確認できないが（0 件），最も近い内容のコメントを(10)に挙げる.

(10) 幸せをしやわせって打って
カラオケの機械で検索しても出てこない〜って人がいました…

Culture（文化）には，その表記の間違いが（言語）文化遺産を傷つけるという内容に関連するものが分類される[3]．本発表では，日本語を遺すべき文化遺産として捉える主張は限定的だった（1 件）.

(11) 遭遇すると、言葉の化石を眺めているような気分になりますね

Social Impact（社会的影響）には，その表記のせいで送り手に否定的なイメージが付与されるなどの主張が該当する[3]．本発表では，該当するデータが 2 番目に多いカテゴリである（29 件）.

(12) 「こんにちわ」も気持ち悪い…というか頭悪そう🙄

Aestheticism（耽美主義）は，ことばの美しさを損なうという見方である[3]．このカテゴリには，醜さについて言及するものも含まれる（1 件）.

(13) 誤字った。
一番ぎょっとしたのはレンシレンジ。響ききっしょ

Semantics（意味論）には，その表記によって意味が変わり，内容の信頼性が欠如するものが含まれる[3]．多くの表記ゆれが意味の相違をもたらすが，内容の信用を落とすことに言及するものは少ない（4 件）.

(14) 真剣な悩み相談とかの文章の中で「ってゆって、」みたいなのが混ざってると あぁ…って思ってしまいます😇

最後に，Physio-psychological Impact（生理的・心理的影響）には，その表記が受け手にとって生理的，心理的に作用するものが該当する[3]．本発表では最も多くのデータがこのカテゴリに分類された（64 件）.

(15) ずっっっっと言いたかった！！何故か受け入れられないキモさがあります…特にまぢっていう使い方…

3.2.2 中立的・肯定的な態度

「正しさ」との表記ゆれに該当するデータのうち，否定的な態度を示すコメントとは対照的に，肯定的，あるいは中立的な態度を示す 27 件のコメントは，Cougnon &Draelants[3]のカテゴリに当てはまらないため，新たにカテゴリを設定した（以下，分類件数にはカテゴリ間の重複を認める）.

まず，最も多く確認されたのは，場面状況的適切性に関する意見や信念である（12 件）．これには，正しい知識がありながらあえて表記を変えることや，メール，SNS などメディアごとで使い分けをすることに言及するもの，口頭で話すことと文面に書くことのギャップを指摘するものなどが含まれる．代表例として，以下の(16)を参照されたい.

(16) 書くときはいうだけど、口に出して言うときはゆうなんですよねえ

次に多く確認された大局的視点を反映するカテゴリ（11 件）からは，ことばは常に変化の中にあるという主張が散見される．そのような主張からは，絶えず変化することばに対する「正しさ」を問うような態度もうかがえる．以下(17)に該当データの一例を示す.

(17) 言語は変わっていくものだからいずれはこれが使われていく世の中になるのかなぁ(╹ᗜ_ヽ)_
次世代の人たちはこれを変だと思わなかったりして(ง̇)

三つ目に識別されたカテゴリは多様な表記の受容に関連するものである（6 件）．表記については個人差も大きい，表記ゆれを気に留めないようにと示唆するものがこれに含まれた．以下(18)はこのカテゴリに該当するデータの一例である.

(18) いろんな方がいるのだから
いちいち気にしてたらキリがないですよ

4. 考察

本発表では，いわゆる「正しい」表記とのずれに関するメタ語用論的言説から，9 つの言語イデオロギータイプを特定した．データの過半数は，「誤用」とされる表記に対する否定的態度や規範意識—新野[7]の考える「正誤」に関する（客観的）意識，「好悪」，「美醜」，「親疎」のような主観的な意識—を表出している．独特の言語現象が見られる「打ちことば」においても，何が「正しい」かは時に主観的，あるいは相対的なものでありながら，「語彙を適切に使用すべきである」という規範が読み取れる．

また，データには，(1)~(5)のようにその表記を使用するメッセージの送り手について言及するものも少なくなかった．これは，Cougnon & Draelants[3]も指摘するように， SNS のようなプラットフォームにおけるコミュニケーションでは，表記だけが他者の“social and identity markers (p. 97)”になりやすいことの表れかもしれない．つまり，特に匿名の SNS では，送り手の人物像に対する評価・判断が，選択された表記に大きく依存し得るということである．これにより，「誤用」とされる表記の使用には，その使用への主観的意識だけでなく，それを使用する者への主観的な評価や判断も伴うのではないかと考えられる．実際，これを裏付けるように，特定の絵文字の使用に関して否定的な態度を表す明示的な主張へのコメントに，以下(19)のような反応が確認できた．

(19) 使ったことないけど…
そんなこと言われたら、もう怖くてどの絵文字も使えなくなってくる

このように，特定の表記の使用とそれにより与えられる人物像の評価が個人にとって意味のあるものとなることから，メタ語用論的言説や，それが表す言語イデオロギー，さらにはそこに反映される言語規範が，人々の「打ちことば」の使用や選択に影響を及ぼす可能性を示している．

5. おわりに

本発表では，人々の「打ちことば」の使用に影響を及ぼす要因を検討するため，言語規範に焦点を当て，匿名 SNS におけるメタ語用論的言説を質的に分析した．

ことばに関することばを含む投稿 18 件の内容分類からは，いわゆる「正しい表記」とのずれ（7 件），記号・絵文字・「笑」表現の使用と選択（8 件），文体の使用と選択（4 件）の 3 つのカテゴリを特定した．投稿に紐づくコメント欄のコメントも加えると，「正しさ」との表記ゆれは口語形式と文語形式による表記ゆれ，誤字・誤用形式，規範逸脱的とされる表記の 3 つのサブカテゴリによって構成される．Cougnon&Draelants[3]に倣い，116 件のメタ語用論的言説を対象に，それらに反映された言語イデオロギーの分類を試みたところ，表記ゆれに対する否定的な態度からは，生理的・心理的影響と，送り手の社会的イメージの低下につながるものの 2 つのカテゴリを中心とする 6 つ，中立的・肯定的な態度からは，それとは一方で対立する信念として，場面による使い分けやことばを変化の中に捉える見方を含む 3 つのカテゴリが確認された．

これら，人々の「打ちことば」への態度に映し出されるように，「語彙を適切に使用すべき」という規範は強く人々の意識に結びついているようだ．さらにその規範意識は，時に表記そのものにとどまらず，それを使用する送り手の評価や判断にも影響を及ぼし得る．この作用が大きければ大きいほど，人々は「打ちことば」をより意識的なプロセスのもと使用，選択することになるだろう．今後はこの点に着目し，「打ちことば」の使用と選択について，更なる検討を進め，より深い洞察を得ていきたい．

謝辞

本発表は日本学術振興会の科学研究費補助金（基盤(S) 20H05630）の成果の一部である．

文献

[1] 田中ゆかり, (2014) “ヴァーチャル方言の 3 用法 :「打ち言葉」を例として” 石黒圭・橋本行洋(編), 話し言葉と書き言葉の接点, pp. 37-55.
[2] 佐竹久仁子, (2018) “ことばの規範とジェンダー : こどもたちが学ぶこと”, 日本語学, Vol. 37, No. 4, pp. 44-54.
[3] Cougnon, Louise-Amélie & Hugues Draelants, (2018) “Language Ideologies and Writing Systems in CMC: a Sociolinguistic Approach”, Language and the new (instant) media, Vol. 9, pp. 88-99.
[4] Silverstein, Michael, (2003) “Indexical order and the dialectics of sociolinguistic life”, Language & Communication, Vol. 23, pp. 193-229.
[5] 中村桃子, (2021) “「自分らしさ」と日本語” 筑摩書房.
[6] Hsieh, Hsiu-Fang & Sarah E. Shannon, (2005) “Three Approaches to Qualitative Content Analysis”, Qualitative Health Research, Vol. 15, No. 9, pp. 1277-1288.
[7] 三宅和子, (2004) “「規範からの逸脱」志向の系譜 : 携帯メールの表記をめぐって”, 文学論藻, Vol. 78, pp. 178-162.
[8] 新野直哉, (2020) “序章 :「誤用」・言語規範意識について” 新野直哉(編), 近現代日本語の「誤用」と言語規範意識の研究, pp. 1-14.